

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500084		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	春日井グループホームそよ風 1階		
所在地	愛知県春日井市東野町西1-12-4		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2392500084-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成24年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に生きる」の精神、「そよ風憲章」にもあるように、地域の方々の協力を得、関係各所とのつながりを蜜にし、入居者様、御家族様の笑顔があふれるグループホームにして行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、ホーム管理者が新たにホームのセンター長を兼務することになったが、元々ホームの介護職員として従事していたため、職員との信頼関係が築けている。さらに、計画作成担当者に従事しているため、家族との情報交換も行われており、信頼関係を築けている。そのような取り組みがあることで、運営推進会議には、毎回、複数の家族の参加が得られている。その他の取り組みとして、介護計画の見直し時には、家族と個別に面談を行う時間をつくっており、家族の意見、要望を定期的に把握するように努めている。また、今年度より、ホームの駐車場の一部を利用して、移動販売の業者の受け入れを行うようになったことで、歩行が困難になって外出の機会が限られてきた利用者も買い物をするができるようになり、利用者にとって、外部の方の交流の機会になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に生き、共に助け合い(共生共助)の理念を管理者・職員が共有し介護を通じて地域社会に貢献できるよう、実践に向けて努力している。	運営法人の理念「そよ風憲章」の他、事業所独自の理念もつくっている。さらに、ユニット毎で検討し、ユニット独自の理念もつくっており、職員一人ひとりが日頃のケアで意識するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事ごとに、地区のボランティアの方による交流会を行っている。1年に1度ある施設の祭りでは、地域の方の参加もあり交流を深めている	地域の子供会の子供神輿を利用者と見に出かけて、子供達との交流の機会をつくっている。また、ホームの行事の際には、地域の方にも案内を出して、地域の方から協力が得られるなど、相互の交流に努めている。	今年度より、ホームの駐車場を利用した移動販売を行っている。ホーム関係者に限定されていないため、地域の誰もが気軽に利用することで、日常的な交流につながっていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際には当施設の支援方法などについて伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を行い、ご家族や市の職員、地域の方の参加があり、意見を頂き、その意見をフロア職員に伝えていくことでサービスの向上に繋がるよう努めている	会議には、多くの家族の参加が得られ、家族との交流の場としての役割も果たしている。さらに、会議を通じて地域の方との交流にもなっており、地域の方から得た情報から、利用者の外出等の機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険上の手続き等の相談や、現施設の情報提供・運営推進会議の意見交換などを行い、協力関係を築いている。介護相談員の受け入れを行う事で、入居者等の相談に応じる等の活動を行っている。	市内の事業者連絡会が案内を受け、研修等の機会があれば参加するように努め、定期的な情報交換に努めている。また、市担当部署とも、不明点等があれば相談し、助言等を得るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会は行っており、職員全体で強い意志のもと、玄関施錠やベルトによる拘束を含む、すべての拘束について行っていない	ホーム玄関の入口の自動扉のスイッチを切っていることで、施錠を行っていないが、2階ユニット入口についてはやむを得ないと判断し施錠を行っている。職員は、日頃から身体拘束のないケアに努めており、言葉かけにも注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、当施設では報告として上がっていないが、今後もそのような事が起こらないよう、職員・家族で入居者様の様子を見守って生きたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当施設では制度を必要とする入居者さまはみえないが、研修・勉強会を行い学ぶ事も必要と思います		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の説明の際には、ご家族や入居者様の不安や疑問に誠意を持って、分かりやすく説明することで、理解と納得が得られるように努めています(複数の職員が同席し説明する)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時や運営推進会議の際に意見交換等を行いそれを反映できるよう努めている	ホーム玄関に意見箱を設置している他、運営推進会議を通じて家族との情報交換をはかっており、家族からの要望の把握に努めている。さらに、介護計画の見直し時には家族と面談する機会をつくり、毎月、ホーム便りを作成している。	家族間の交流を、運営推進会議後の時間に行うことで、より率直な意見や要望を聞く機会になると思われる。今後の取り組みとその実現に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の際に、代表者から運営についての説明があり、各フロア会議では職員の意見を聞く機会を持っている	ホーム全体の会議とユニット毎の会議を行っており、意見や要望を管理者に伝えるようにしている。また、管理者は日頃から現場の業務に従事し、職員と接しており、必要に応じて個別面談を行う時間もつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きたいという気持ちと条件に沿うように努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議時に定期的な勉強会や、会社内外の研修の機会参加できるように勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事等の際に他施設のボランティアに行くなど交流を行っている。訪問時に意見交換等も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各居室担当を中心に、家族・入居者様の思いを聞きながら、安心して穏やかな生活に結び付けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時など、ご家族の希望・思いを聞き、サービスに反映させるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、他サービスについての情報提供を提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側でなく、入居者様を目上の方として、接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談時には、近況報告し本人の思い希望を伝えています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や公園など利用することで、交流が途切れないように努めている	ホームでは、利用者が家族と一緒に外出し、お墓参り等に出掛けたり、以前の友人、知人がホームに訪問することもある。さらに、お盆や正月には利用者が一時帰宅して、家族や親族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出やレクリエーションなどを利用し、入居者同士の交流をはかっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他サービスの情報提供を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに添ったサービスを、その方の生活歴などを参考にしながら勧めている	担当者が利用者の日頃の様子を把握し、それらの情報を会議等を通じて職員間で共有している。計画作成担当者は、3か月毎にアセスメントを見直し、利用者の思いや意向等の情報を定期的に追加するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員同士が、その方の情報を共有しサービスに生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察することで、その方に合ったサービスの提供に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて、本人の思いを職員間で共有し、計画書に家族の思い・本人の思いを反映させ計画書を立てている	担当者が毎月、計画内容をチェックしモニタリングを行っている。それを3か月繰り返してカンファレンスを行い、介護計画の見直しにつなげている。さらに、見直し時には家族との面談の時間をつくっており、家族の意見や要望の確認もとり入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添った記録をし、その情報を職員内で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に添って、地域活動に参加できるように、家族との連携をはかり進めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の生活が豊かになるように、地域のボランティアなど利用しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携を図りながら、家族との連絡・情報提供を密にしている	ホーム提携医による往診と、地域の医療機関による医師による往診がそれぞれ月2回あり、さらに訪問看護もあり利用者の健康チェックを行っている。また、利用者が以前から受診していたかかりつけ医への受診も可能である。また、歯科医師による往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護との連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医または病院関係者との情報提供を密に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに関し、当施設では行っていないが、前向きに検討中である	ホームでは、家族に対して「できること」と「できないこと」を伝えながら、話し合いを重ね、可能な支援を行っている。現状、提携医や訪問看護の支援を受けながら対応する方針であるが、管理者として改めて勉強会等の機会をつくる考えも持っている。	利用者の状態によって、思いが変わることがあるため、家族に対して、改めて話し合いを行いながら、同意をもらうことを期待したい。また、勉強や他ホームの事例を学ぶことで職員の資質向上にも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会や、目の届く位置に資料などをおき、緊急時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもとに避難訓練の実施を計画し、年2回は実施をし、又その方法についても職員全体で周知している	年2回、避難訓練を実施しており、訓練の際には消防署の協力も得られている。さらに、地域の方との話し合いも行っており、避難場所の確認も行っている。また、ホーム内に必要な備蓄品の確保も行っている。	地域の方との協力関係をより親密なものにするためには、地域に訓練に参加したりする等、地域の方との交流の機会を増やす取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、対応についても尊厳ある目上の方であることを念頭にケアにあたり、共同生活においても、一人一人のプライバシーは守られている	管理者からは敬語にこだわることはないが、家族ではないので、馴れ合いにならないように、日頃から、職員に対して言動に注意を促している。また、居室も外から丸見えにならないように、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者主体で一日の流れを決めており、業務優先とならないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の思いや習慣を優先し、その日の流れや外出計画を進めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は職員が準備した物でなく、自分で選ぶ事が出来るように勧め、その方の好みや気分に合わせた身だしなみが出来るように勧めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の残存能力を生かし、買出し・食事の支度・片付けなど、食事に関する一連の動作を職員と一緒に行うことで、食への楽しみにつなげている	決められたメニューはあるが、利用者の嗜好も確認しながら、状況によりアレンジを加えている。さらに、利用者と買い物に出かける機会をつくったり、調理や片付け等には利用者も参加している。また、食事の際には職員も一緒に食べて、楽しい時間をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせて、形態・量などを考慮し提供しているが、その為に栄養のバランスや水分の確保が崩れないように常に見直し、検討している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを進め、就寝時には義歯洗浄剤を使用するなどし、又、訪問歯科との連携を図り口腔内の清潔維持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを掴み、必要時には声掛け・誘導を行うことで、失敗を減らし排泄の自立に向けてケアを進めている	一人ひとりの排泄状態をチェックし、職員間で情報の共有をはかっており、声かけを行い、トイレへの案内を行っている。また、昼間と夜間でおむつを使い分けたり、状況によりポータブルトイレを活用したり、その方に合わせた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、食事・水分などを見直し、又、適度な運動などを取り入れて腸運動を促し便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に合わせてながら入浴を勧めている。	ホームでは、基本一日おきの入浴となっているが、毎日準備していることで、毎日の入浴も可能であり、拒否の方にも声かけを工夫している。また、入浴の際には、入浴剤を使用したり、季節の柚子湯や菖蒲湯もとり入れる等、楽しみも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人一人の体調や習慣に合わせて休息(居室・リビング)する事が出来、夜間の就寝時間は決まらず、その方の習慣に合わせている。不安や不眠時には寄り添い、安心し休んで頂けるように勧めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬剤情報を載せていき、用法・副作用についても常に確認・把握できるように勧めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や、現在の想いを把握し、役割や生きがいを持って頂ける支援を日々の生活の中や、活動計画を利用し勧めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って、家族との外出の機会を持って頂けるように、面談時などに本人の希望を伝え、又、お願いし実際に外出の協力をして頂いている	ホームでは、ほぼ毎日の買い物を実施したり、近所への散歩にも出かけている。さらに、喫茶店でのモーニングや外食の機会もつくっている。また、花見や紅葉をはじめ、日帰り旅行にも出かけており、利用者の外出の機会をつくっている。	ホームでは、外出の機会をつくっているが、これらの取り組みを家族にも伝えるように、ホーム便りの内容に少し工夫を加えてみるなど、より伝わりやすい取り組みを行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはトラブルを防ぐ為に、家族からお小遣いとして施設でお預かりしているが、本人の買い物の際には、お返し店頭で自ら支払うなど「使う」といった支援は進めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の施設便りに、家族に当てて本人からメッセージを書いていただくようにすすめている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不自然な飾りつけは避け、観葉植物や季節を感じられるものを置き、生活の場ということを念頭に環境を整えている。また毎日の清掃にて、臭いや汚染などで共用の場が不快にならないように心がけている	ホーム内には、季節の飾りを行ったり、手作りカレンダーや利用者の外出の様子を撮った写真を掲示したりしている。また、リビングの窓が大きいことで採光が十分に得られており、共有空間は明るく穏やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓スペースとは別に、小スペースだが、入居者同士がくつろげる空間はあるが、一人でとなると居室内でとなる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある家具や家族の写真などをおき、気持ちよく生活して頂けるようにくふうしている	テレビ、椅子、ぬいぐるみ、写真等、思い思いの物を持ち込んだり、逆にシンプルな雰囲気のある部屋もあり、それぞれにその人らしい居室をつくっている。また、居室内に収納スペースやテーブルを設置していることで、居室内を広く使うことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた空間の中で、一人一人の環境に合わせることは難しいが、家具の配置などの工夫で使いやすさ、安全の配慮をしている		

(別紙4(2))

春日井グループホームそよ風

目標達成計画

作成日：平成24年11月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		入居者様に対する言葉使い(声掛け)	各入居者様に応じた声掛けが出来る 人生の先輩であることを意識した言葉使いができる	施設内勉強会 接遇マナー(外部研修)参加	12ヶ月
2		重度度認知障害に対するケア方法と知識	知識向上やケアの統一	フロア会議時などを利用し勉強会やマニュアルの見直しをする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月